

	<h1>A = 440 Hz</h1> <p>SCE・Net 横山哲夫</p>	<p>E-93</p> <p>発行日 2017.1.12</p>
---	---	--------------------------------------

今の私の一番の楽しみは、初孫を風呂に入れることである。湯船のなかで、手のひらを開いたり閉じたりして噴水を作ってあげると、「きゃきゃ」と言って喜ぶ。至福の時間である。風呂から出て、身体を拭いてやって寝かしつける。ちょっと不機嫌になるのだが、そのうちに顔を私の肩にあずけて寝てしまう。なんとも可愛い、ジジ馬鹿であろうか。しかし、そんな孫でも泣き声は好きになれない。自分の孫ならまだ我慢もするが、出張で新幹線や飛行機に乗ったとき、よその赤ちゃんが泣きやまないときは閉口してしまう。赤ちゃんの泣き声がクラシックの名曲だったら良いのにと感じてしまう。そんな経験は、私だけではないであろう。

突然ではあるが、最近、不思議な題名の本に出会った。その本の題名は、「ジョン・レノンを殺した狂気の調律、A = 440 Hz」である。買ってしまった。なかなか面白かったのだが、難解で、最後まで読みきれなかった。本の詳しい内容はさておき、440 Hzである。楽器の多くはこの周波数で調律する。ミドルA、ラの音である。ピアノの鍵盤のほぼ中央。実は、この周波数はサイレンや時報などにも使われていて、人間を含む哺乳類の赤ちゃんの多くも、産まれた瞬間に、この440 Hzで泣く。産まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんの庇護がなければ生きていけない。お母さんの庇護を求め必死に泣く。440 Hzは、人に不安感を与える警告音なのだろうか。

「人の嫌いな音10選」では、黒板をこする音が第1位であるが、赤ちゃんの泣き声も10位以内に入っている。第2位のガラスをこする音は、まだ我々の祖先がネズミだったころの恐竜の鳴き声に似ていて、祖先の遺伝子のなかにその記憶が残っているからだそうだ。さぞや祖先たちは恐竜が怖かったのであろう。では一体、なぜ赤ちゃんの泣き声が嫌な音に聞こえるのか。祖先だったネズミたちに、恐竜と同じような怖い存在がそのほかにもあったのだろうか。そして、なぜ、440 Hzが楽器の調律の規準音に使われているのであろうか。

ルネサンスの天才画家ラファエロは、名画アテナイの学堂に多くの天才達を描いた。中央にはアリストテレスにプラトン、そして左下にはピタゴラスがいる。このピタゴラスは直角三角の二辺の二乗の和は、斜辺の二乗に等しいと言うピタゴラス定理で有名だが、音楽の基礎である音階を作ったのも彼である。あるとき、町を散歩していたピタゴラスが鍛冶屋の前に差しかかる。そこで、職人がたたくハンマーの音に響き合う二つがあることに気づく。彼は家に戻り、二つの一弦琴（モノコード）を作る。そして、響き合う音を探った。一つのモノコードに対して、もう一方のモノコードの弦の長さと同じにすると、それぞれの弦が響き合うことを発見した。これがユニゾンで（同音）ある。次に、一方のモノコードの弦を倍の周波で響くように張る。オクターブ（倍音）である。

この二つがもっとも響きあうことをピタゴラスは見つける。紀元前500年前のことである。そして、その他にも響き合う関係を探り、音階を作る。今日でも世界の音楽の7割は、この音階が使われていと言う。しかし、このときの規準音は440Hzではない。

ピタゴラス音階を起源にグレゴリオ聖歌や初期のクラシックでは、人に心地よいソルフェジオ周波数で音楽の音階は作られていた。しかし、音階の比率が一定でなかったため、一人で歌を歌うときや一つの楽器でメロディーを奏するときには良いのであるが、合唱や合奏には向かない。そこで、音楽の父と言われるバッハが活躍していたころ、いくつかの楽器でも調和が取れるように、平均率音階が作られた。元々、不揃いだった音階を階段のように平均化したため、今、私たちの聴いている音楽は、完全に響き合っている訳ではない。絶対音階を持った人たちには、それがわかるため、気持ちが悪くなるそうだ。

話しは横道にそれてしまったのだが、このときは、まだ440Hzは登場していない。440Hzが登場するのは戦後である。ある作為的な目的で、音楽の規準音が440Hzにされてしまった。先に紹介した本にはそのように書いてある。真意は定かではないが、人を興奮させる440Hzで作曲された音楽、それがロックである。ロック音楽に熱狂する若者達、そして、それに気づいて、本来の人に優しい音楽に戻そうとしたのが、ジョン・レノンであった。

全ての物質は、ある特定の固有振動数をもっている。私たち人の身体の70%は、水と言う物質でできている。そして、私たちの体内にある水の振動状態は、外部の振動の影響を受けて変わると言うのである。ピタゴラスがモノコードで音階を見つけたときのように、440Hzの振動が人の振動状態を変化させ、精神状態にも影響を与える。人は440Hzに興奮し、攻撃的になる。ロックのリズムと旋律に興奮した若者達が、過激な行動をとり、若い兵士達が戦場で戦う。そして、それで潤う、誰かかがいる。それに気がつき、人に優しい本来の音楽に戻そうとしたのがジョン・レノンである。

440Hzの話は本の受け売りであり、真意は分らない。しかし、一度、面白い体験をしたことがある。有名な三大テノール歌手のホセ・カレーラスの歌を聴きに行ったときのことである。良い席がとれず、ホセ・カレーラスの背中をみながら聴くことになった。正面で聴きたいと思いつつ聴いていると、突然、彼はうしろを振り返り、私たちに向けて歌いだした。その瞬間、私は感激し涙がでた。ほんの瞬間であった。コンサートの帰り道で、一緒に聴いていた家内にその話しをしたら、彼女も全く同じ感動を覚えたと言う。音楽とは人にとって、一体なんなのか。音とは一体なんなのか。

人は母親の体内で、母親の鼓動を聴き、生まれる。そして440Hzで泣き、ソルフェジオ周波数の子守唄で眠り、「あんぱんマン」のテーマでご機嫌になる。校歌で送り送られ、流行歌にかぶれ、誰も聴いていないのにスター気取りで、カラオケで歌い、耳から白いひもをたらし歩きながら音楽を聴く。ロックをやるにには体力がないので、ジャズもやるか、と言っているうちに、坊さんの御経に送られ、三途の川を目指す。人の一生とは、なんと、音楽(音)と共にあるのか。私は今、ジャズバンドでギターを弾いて楽しんでいる。あとは、坊さんの御経を聴きながら、三途の川を渡るだけである。私は、孫が大好き、音楽が大好きである。

参考資料

1. ジョン・レノンを殺した狂気の調律  $A=440\text{Hz}$

レオナルド・G・ホロウィッツ (著) 渡辺亜矢 (翻訳)

2. 嫌な音ランキングTOP10!

方法: インターネットリサーチ

2016年11月25日~11月28日 20代~40代 男女 1360名